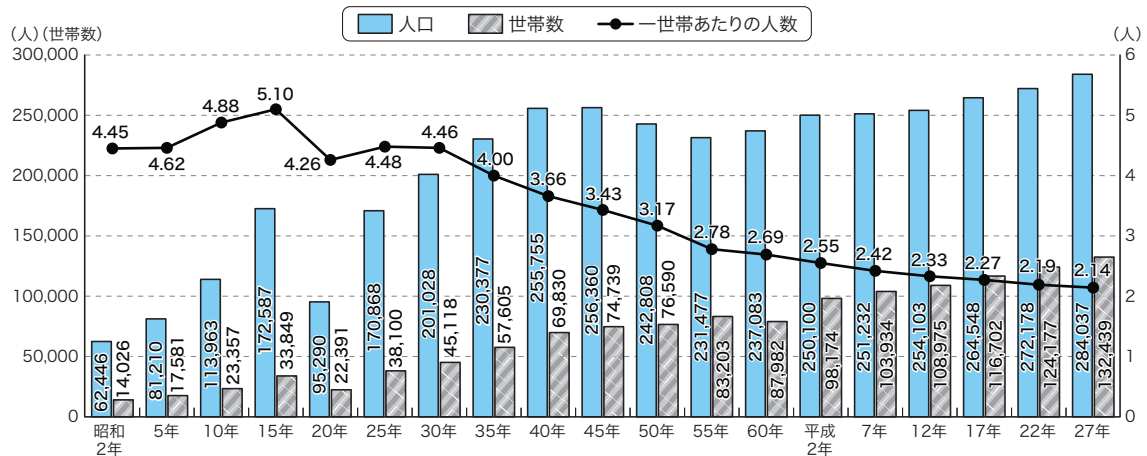


1 人口及び世帯数の推移

人口は緩やかに増加、一世帯あたりの人数は減少

- 平成27年9月1日現在、鶴見区の人口は284,037人（市内第3位）、世帯数は132,439世帯（市内第2位）となっています。
- 鶴見区の人口は緩やかな増加傾向が続き、世帯数は年々増加しています。

【鶴見区の人口・世帯数の推移】



出典：平成27年度版 発見つるみ～データでみる鶴見区～

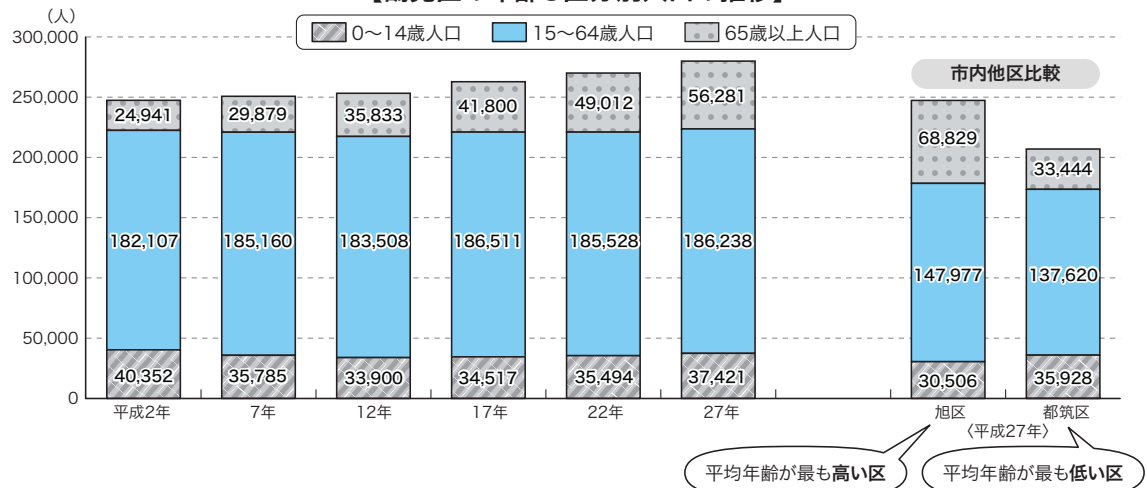
※国勢調査の結果数値(各年10月1日現在)、昭和2年は12月31日現在、平成27年は9月1日現在推計人口

2 年齢3区分別人口の推移

65歳以上、0～14歳人口が増加

- 65歳以上人口（老年人口）の増加が進んでおり、平成12年に0～14歳人口（年少人口）と65歳以上人口（老年人口）の数が逆転したあと、近年その差が広がる傾向にあります。
- 0～14歳人口（年少人口）は、昭和30年以降減少していましたが、平成12年以降は、増傾向にあります。

【鶴見区の年齢3区分別人口の推移】



出典：平成27年度版 発見つるみ～データでみる鶴見区～

※平成2年～22年については国勢調査の結果数値(各年10月1日現在)、平成27年は1月1日現在推計人口

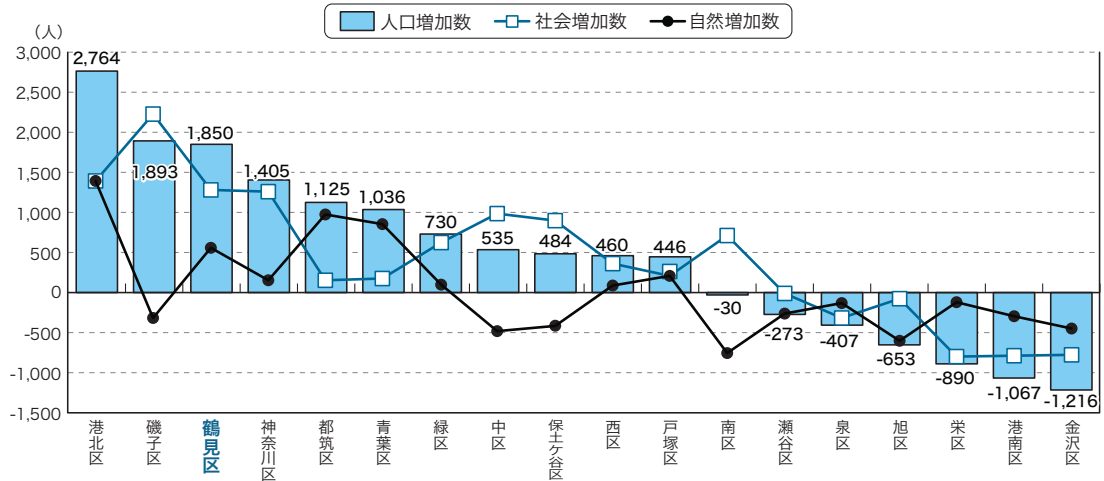
3 社会増加数、自然増加数

社会増加数は、市内で第3位

- 平成26年の社会増加数は1,286人(市内第3位)、自然増加数は564人(市内第4位)、人口増加率は0.66%(市内第3位)であり、市内で人口増加が多い区です。

※社会増加数=転入数-転出数+その他増減 自然増加数=出生数-死亡数

【18区別の社会増加数・自然増加数(平成26年中)】

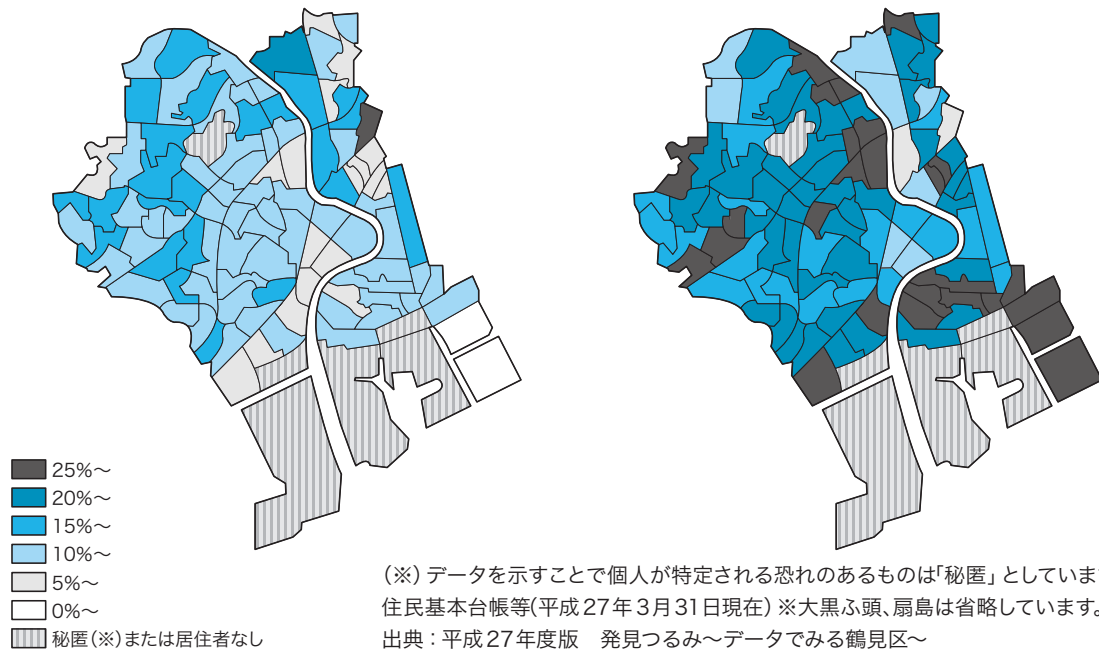


出典：政策局「横浜市の人口～平成26年中の人口動態～」

4 町別の年少(15歳未満)、老年(65歳以上)の人口比率

年少(15歳未満)、老年(65歳以上)人口比率は、区内でまちまち

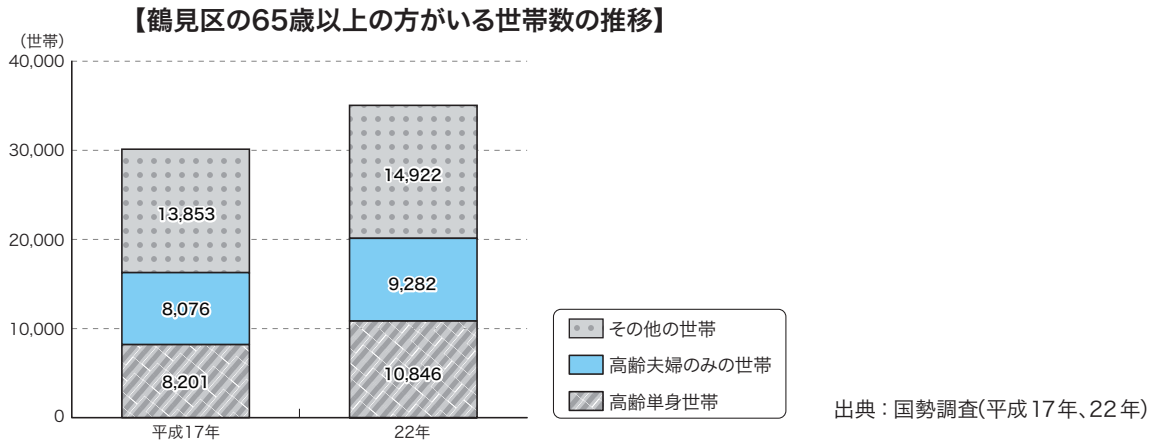
【鶴見区内町別年少人口(15歳未満)人口比率】 【鶴見区内町別老年人口(65歳以上)人口比率】



5 65歳以上の方がいる世帯数の推移

65歳以上の高齢単身世帯が特に増加

- 65歳以上の方がいる世帯は、平成17年から平成22年の間に4,920世帯増え、高齢単身世帯は、2,645世帯増えています。

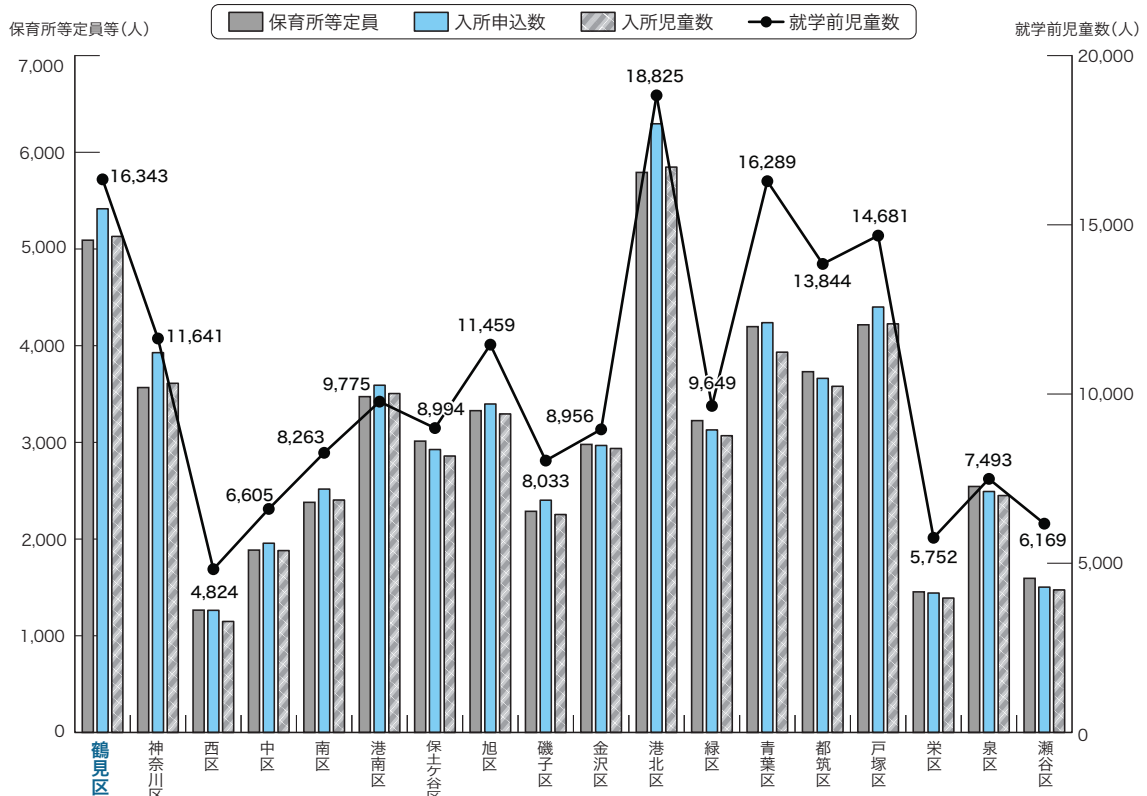


6 就学前児童数と保育所等の状況

就学前児童数は、市内で第2位

- 保育所等の定員数は5,091人で、18区中2番目の多さになっています。

【18区別の保育所等定員・入所申込数・入所児童数・就学前児童数(平成27年4月1日)】



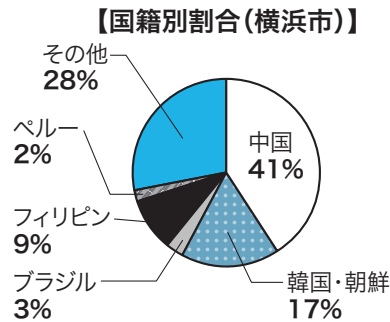
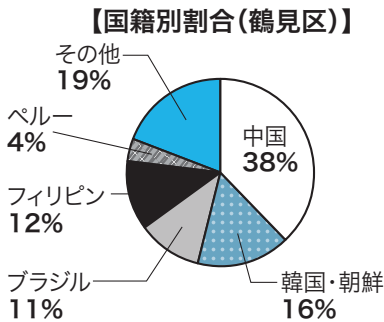
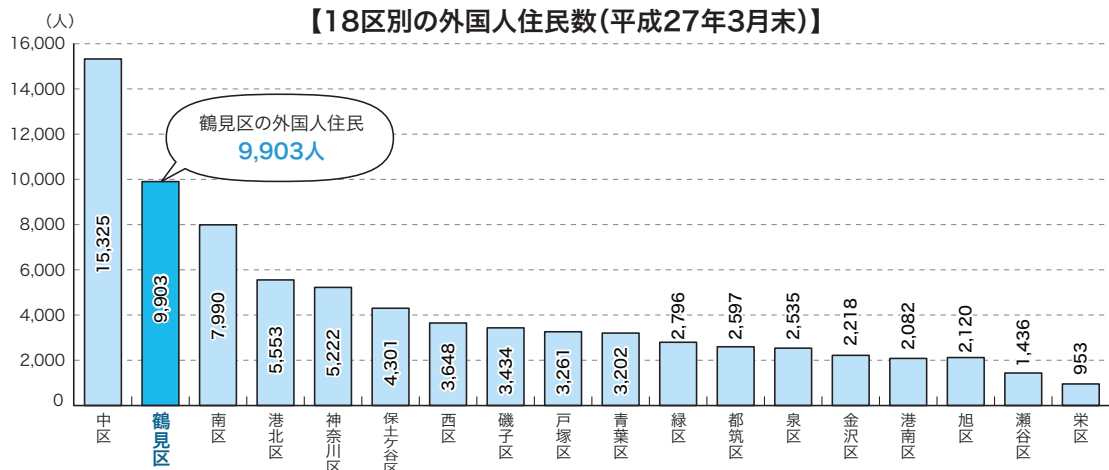
出典：平成27年度版 発見つるみ～データでみる鶴見区～
 保育所等：保育所・幼保連携型認定こども園のほか、地域型保育(家庭の保育、小規模保育、事業所内保育)を含む。

7 外国人住民数

外国人住民数は、市内で第2位

- 国籍別にみると、中国、韓国・朝鮮、フィリピンの順に多く、横浜市全体と比べると、ブラジルの構成比が大きいです。
- 鶴見区は、外国人児童数(※)が288人で、18区中で1番多いです。

(※市立小学校に通う外国人児童の数 資料：横浜市教育委員会「市立学校現況」(平成27年5月1日現在)

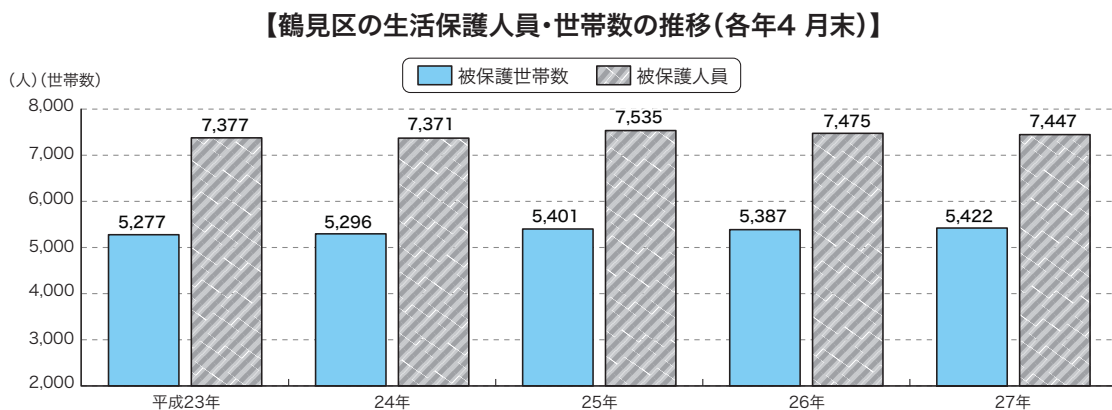


出典：平成27年度版 発見つるみ～データでみる鶴見区～

8 生活保護人員、世帯数の推移

生活保護人員は、市内で第3位

- 生活保護人員、世帯数ともに、18区中3番目に多くなっています。



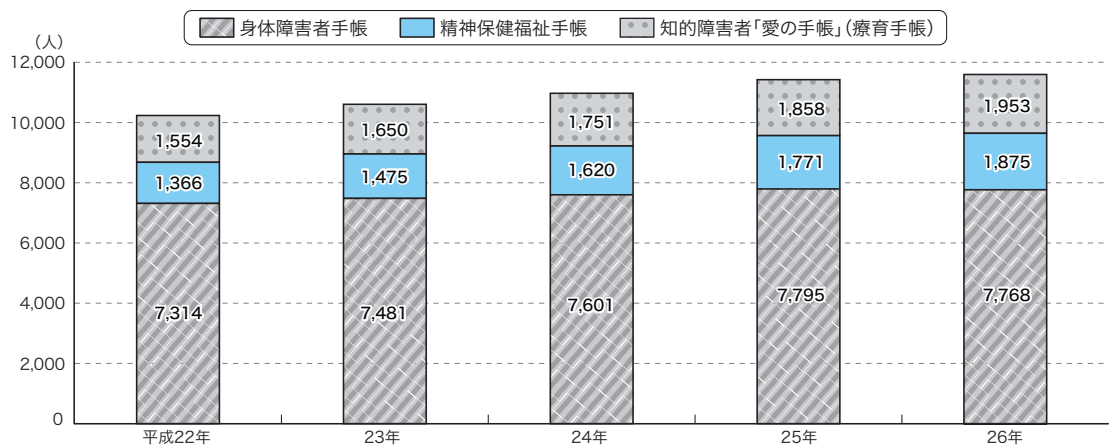
出典：平成27年度版 発見つるみ～データでみる鶴見区～

9 各種障害者手帳所持者数の推移

各種障害者手帳所持者数が年々増加

- 各種障害者手帳所持者は、平成22年から平成26年の間に、1,362人増えています。
- 平成22年度末に対する平成26年度末の区全体人口増加率は3.2%ですが、各種障害者手帳所持者数は、それより高い増加率になっています。(身体障害者手帳：6.2%増、精神保健福祉手帳：37.3%増、知的障害者「愛の手帳」(療育手帳)：25.7%増)
- 平成26年度末の各種障害者手帳所持者数は、市内(18区)でも多い状況になっています。(身体障害者手帳：18区中1番目、精神保健福祉手帳：18区中7番目、知的障害者「愛の手帳」(療育手帳)：18区中3番目)

【鶴見区の各種障害者手帳所持者数の推移(各年度末)】



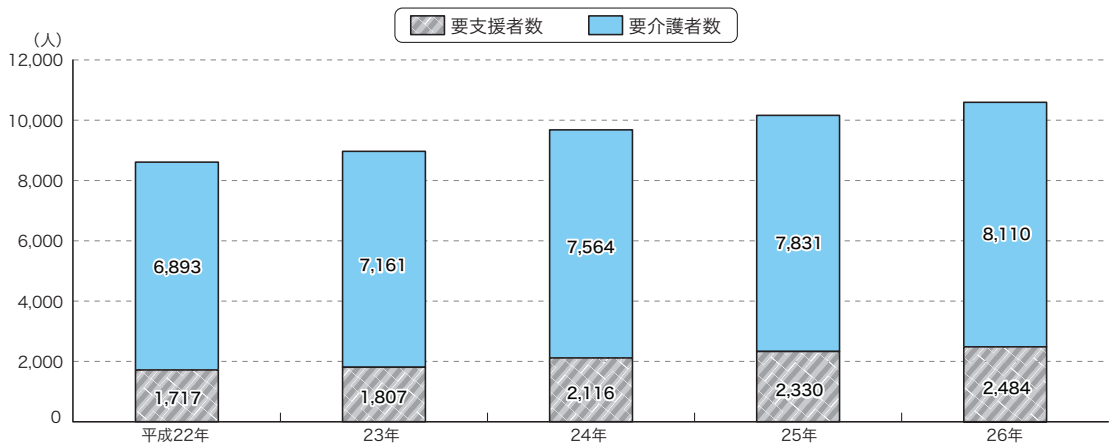
出典：横浜市統計書

10 要介護認定者数の推移

要介護認定者数が年々増加

- 要支援・要介護認定者は、平成22年から平成26年の間に、1,984人増えています。
- 平成26年度末の要介護認定者数は、18区中3番目の多さになっています。

【鶴見区の要介護認定者数の推移(各年度末)】



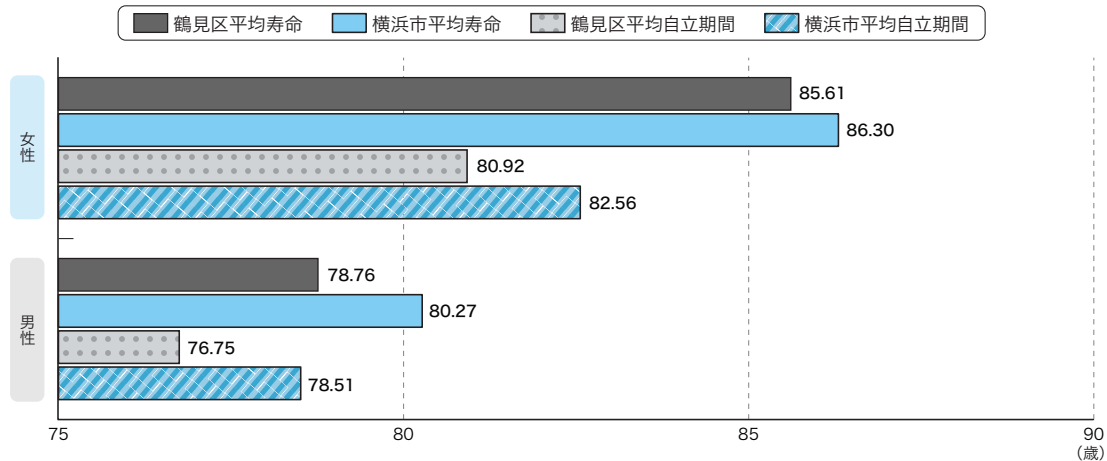
出典：横浜市統計書

11 平均自立期間と平均寿命

平均自立期間、平均寿命ともに、市平均より下位

- 鶴見区の平均寿命は、横浜市平均より、男性は1.51歳短く(18区中17番目)、女性は0.69歳短く(18区中14番目)なっています。
- 平均自立期間は、横浜市平均より、男性は1.76歳短く(18区中17番目)、女性は1.64歳短く(18区中16番目)なっています。

【平均自立期間と平均寿命(平成23年)】



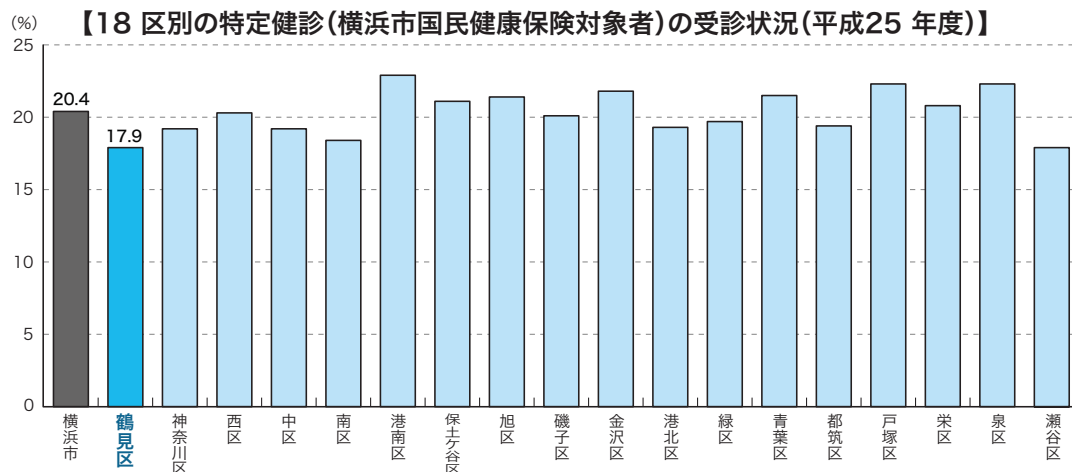
出典：横浜市衛生研究所ホームページ 保健統計データ集

※平均自立期間とは、「日常生活に介護を要さない期間の平均」を指したもので、健康寿命の考え方のひとつです。しかし、行政区ごとの健康寿命の算出は調査数が少なく困難なため、今回は類似する指標として使用しています。

12 特定健診(横浜市国民健康保険対象者)の受診状況

特定健診受診率(横浜市国民健康保険対象者)は、市平均より下位

- 平成25年度の鶴見区の特定健診受診率(横浜市国民健康保険対象者)は、17.9%で、横浜市平均20.4%より低く(18区中18番目)なっています。

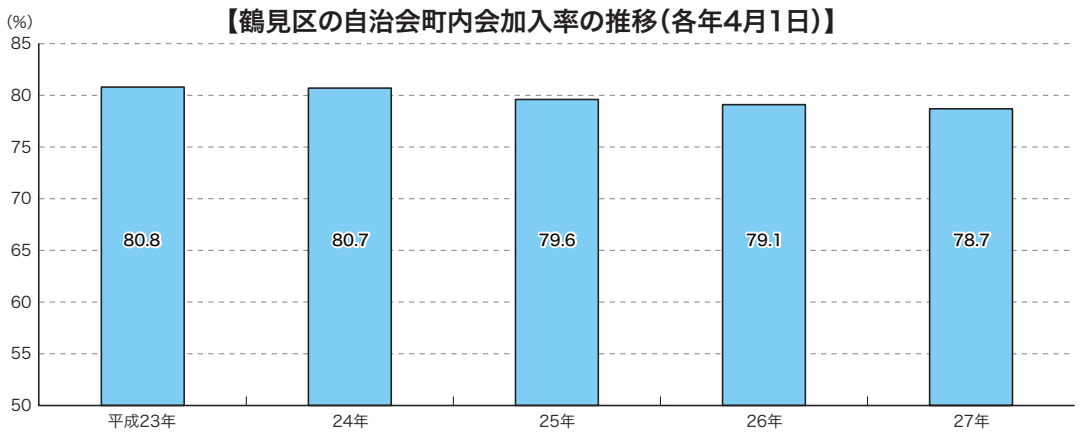


出典：横浜市統計書

13 自治会町内会の加入率の推移

自治会町内会の加入率が年々微減

- 平成23年の自治会町内会加入率は80.8%でしたが、年々加入率が微減しており、平成27年は78.7%になっています。これは、横浜市平均75.5%より高く、18区中7番目になっています。

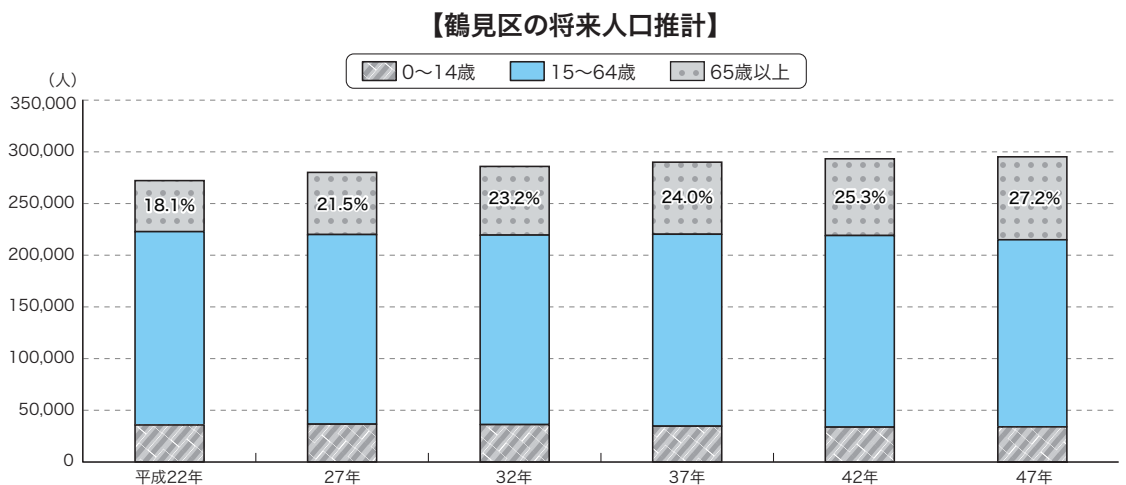


出典：市民局地域活動推進課

14 鶴見区の将来の人口

今後も人口増加傾向。特に65歳以上の老年人口が増加傾向

- 横浜市将来人口推計によると、横浜市全体の人口は平成31年をピークに減少の一途をたどると予想されていますが、鶴見区は平成47年でも増加傾向にあると推計されています。
- 年齢3区分別にみると、15～64歳の生産年齢人口は横ばい傾向、15歳未満の年少人口は減少傾向にあります。一方で65歳以上の老年人口は増加傾向にあり、平成47年には高齢化率が27%を超え、鶴見区においても超高齢化社会を迎えることとなります。



出典：政策局 横浜市将来人口推計 ※ H27以降は推計値